～メッセージ～ みなみの風にのせて

「特別支援教育」がつくり出す社会 －共生社会の形成の基礎－

特別支援教育は、「特別支援教育だよりNo.1」でも説明しましたが、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、さまざまな人々が生き生きと活躍できる共生社会の基礎となるものであり、現在及び将来の社会にとって重要な意味をもっています。

今回は、ミネルヴァ書房出版の「発達って、障害ってなんだろう？」という本を参考に、３回に分けて「共に生きる社会」とはどういうことかをお伝えできればと思います。

発達って なんだろう？

大きくなるってこんなこと①

生まれたばかりの赤ちゃんは、身長５０cm、体重３kgぐらいですが、小学校５年生になると、身長は３倍ちかく、体重は１０倍以上になります。身長や体重だけでなく、座高や頭囲・胸囲、そして体の中のさまざまな器官も年齢とともに大きくなります。のびかたにはそれぞれ特徴がありますが、成人といわれる２０歳ぐらいでだいたいのびはとまります。

大きくなるってこんなこと②

背が伸びたり、体重が増えたり、体が成長するのといっしょに、赤ちゃんのときにできなかったさまざまなことができるようになっていきます。

赤ちゃんは、みたりきいたりしたものに興味をもち、「そっちにいきたい、さわりたい」と思います。そうしているうちに、自分の体が思ったようにうごけることにきづきます。そして、あるいたり、ものを器用につまんだりできるようになります。

また、言葉をはなすことや、がまんしたり、がんばったりすることも身につけていきます。

大きくなるってこんなこと③

赤ちゃんが歩けるようになるまでには、かならずできていなければならない段階があります。段階を通る順序はきまっていて、その順序をとびこしたり、逆の順序になったりはしません。たとえば、おすわりをするためには首がしっかりしていなければなりませんし、あるくためにはひとりでたてなくてはなりません。

言葉の例を考えてみても、おなじことがわかります。のどで音をだすことからはじまり、まわりの人たちとのやりとりをとおして、単純なことを言葉であらわすことができるようになるのです。

大きくなるってこんなこと④

そだちかたには、ひとりひとりちがいがあります。そのちがいは「個人差」といわれます。でも、学年ごとにくらべてみるとどうでしょう。1年生より6年生のほうが大きいし、できることも多くなっています。大部分の人は同じような時期に似たようなそだちかたをしているともいえます。この多くの人たちに共通した傾向を「標準」といいます。

「標準」のなかで個人差があるのです。

まとめ　大きくなるってどういうこと？

人が大きくなって、大人になるということは、体の大きさやできることが、年齢に応じて、あるきまった順序でふえていくことなのです。体が大きくなることを**「成長」**といいます。そして、**体の成長をあしがかりにしながら、運動や言葉や心のはたらきがふえて、内臓もよくはたらき、生活のなかで、よりいろいろなことができるようになっていくことを「発達」といいます。**

しかし、個人差の範囲をこえて、発達がとてもおくれていたり、とてもかたよっていたりする場合があります。そのなかに「障害」といわれる**「発達のちがい」**がふくまれているのです。

じゃあ、障害ってどういうもの？

障害ってなんだろう？

障害ってこんなこと①

障害の種類は、体のどの部分がうまくはたらかないかで分類されます。身体障害は、手や足、目や耳などの感覚器官、心臓や肺などの内臓の機能に障害があるものです。手足などに障害がある場合を肢体不自由、内臓に障害がある場合を内部障害といいます。

精神障害は、精神病や薬物中毒症などをいうことが多いですが、ひろい場合では自閉症なども精神障害に分類することがあります。

障害ってこんなこと②

日本にいる障害のある人の数は７０９万人です。この数は人口のおよそ５％。２０人にひとりの割合でなんらかの障害があるということです。また、このような調査では、どういう人を障害のある人とするか重要ですが、たとえば日本の場合、「身体障害者手帳」をもっている人を身体障害者としています。この手帳は自分でいわなければもらえませんので、いわない人は身体障害者の数にふくまれません。ほかの障害も同様で、かならずしも障害のある人全部がかぞえられているわけではありません。

まとめ　「障害」って、どういうこと？

わたしたちがふつう「障害」というとき、それは２つのことをさしています。

～続きは次回、№９で～